

唐津市立馬渡小中学校

●学力の向上) 全員授業公開による授業研究会を継続することで、読解力向上に向けた支援方法の工夫ができた。今後は、新学習指導要領に対応した授業の在り方について継続して研究を進め、児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげられるような実践を工夫していく。  
 ●心の教育) 小中合同行事や地域との交流活動等を通じた人間関係づくりや、特別支援教育の組織的な実践について、研修や実践を重ねることで成果を挙げている。今後は、事後の考察等を含めた情報交換と共有を定期的・組織的に行うことで、生徒指導上の問題を、予防・早期発見・早期対応できるよう、継続して実践していく。  
 ●健康・体づくり) 全校をあげて、学校生活アンケートの活用ができ、教師が児童生徒へ生活面の助言をすることができた。今後は、小学校では、児童の発達段階に合わせて生活振り返りシートを工夫改善を行っていく。中学校では、学活ノートを複数の教員で共有化を図ることにより指導の手立てにつなげていく。  
 ●業務改善) 業務改善に関する研修や日々の意見交換等を通して、職員間の意識が大きくなり向上した。今後は、業務改善に向けた職員の意識の更なる向上と、能率的・効率的な業務遂行のための研修を充実させる。  
 ○小中連携) 中学校教員による小学校副担任制や小学校への乗り入れ授業において成果を挙げている。今後は、小中の系統性を持たせた学習習慣の定着とあわせ、児童生徒が夢や目標を持ち志を高めていけるような実践を、発達段階に応じて系統的に取り組みめるようにする。

2 学校教育目標  
 思いやりを持ち(徳)、自ら学び(知)、心身を鍛え(体・情)、21世紀を生き抜く児童・生徒の育成 ～自分を愛し、他人を愛し、島を愛する児童生徒に～

3 本年度の重点目標  
 ●学力の向上) 新指導要領移行を見据え、単元計画の見直しによる主体的・対話的で深い学びの推進  
 ●心の教育) 人権・同和教育や道徳教育を柱にした特別支援教育の充実(児童生徒対応力の向上)  
 ●健康・体づくり) 生活実態調査をもとにした家庭と連絡を取り保護者との連携  
 ●業務改善) 業務改善、きめ細かな指導の充実  
 ○連携) 小中一貫教育による個性の伸長と地域の教育力を生かした教育活動の充実

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目		重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	取組内容	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●全職員による共通理解と共通実践	●全教員が、「単元を貫く問い」を設定した授業研究を進め、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動を行う。 ●進路実現に向けた学力保障のため、少人数学級の特性を生かし個に応じた指導や補充指導を充実させる。小中合同で、学力向上に関する協議を毎月実施、朝の活動での確認テストを行う。中学校では、各種テストに向けた効果的な学習方法や出題範囲の広範化などを継続する。
○家庭学習の充実		○中学校では、学活ノート等に学習記録の毎日記入率90%以上、小学生については高学年のみ生活ノートに記入。 ○宿題の提出率は80%以上	○家庭学習の充実	●家庭での学習の仕方の説明を行い、学活ノート等を活用したスケジュール管理能力を養わせ、学習時間の記録を手帳や日々の学習の支度を実践していくことで学力の向上を図る。 ●学習内容の定着を意識した家庭学習の大切さについて指導を継続する。1学習一授業一復習一確認テストのサイクルでの勉強をすすめる。 ●中学校では、授業中の確認テストやプリント宿題を授業や単元終了時などに出し、授業と家庭学習のつながりを意識した実践を行う。小学校では、家庭学習の習慣化を目指し、学年に応じた宿題(10分×学年 例：10分×6年=60分)を出す。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。 ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳の授業を中心に、心の教育につながる教育活動を計画し、実践を継続する。 ●「唐津市教育の日」に合わせて、全学年「ふれあい道徳」を行い、保護者や地域の人々に呼び掛け、参加型の授業を実施する。
●いじめの早期発見、早期対応体制の充実		○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業計画等)については組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●日頃から、児童生徒と関わりをもち、いじめや悩み等を訴えやすいう雰囲気をつくる。 ●いじめに対する態度を高め、お互いの気持ちを大切にすると風土づくりに取り組み。 ●職員会議や部会での情報交換や協議を定期的に行い、学校生活アンケートや教育相談週間に よる情報収集を通して、いじめの予防、早期発見・早期解決に努める。 ●定期的なアンケート調査と教育相談の実施等により、いじめの実態把握をする。 ●児童生徒の苦悩について、スクールカウンセラーへの報告と助言を受けながら、児童生徒が落ち着いた学校生活を送れる環境づくりを努める。 ●児童生徒に積極的に関わりをするように、様子を把握し、関係作りを努める。 ●自己肯定感と他者理解を高めるために、グループエンカウンター等の授業を学活・道徳の時間に実践していく。 ●年間を通して言葉遣いや人権について考える機会を設け、まともとして人権週間に設定し、人権について考えさせる。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○生活アンケートなどにおいて、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると回答した児童生徒90%以上 ○生活アンケートなどにおいて、「健康のために規則正しい生活をする」ことが大切である」と回答した児童生徒100% ○1日30分以上体を動かす児童生徒90%	●「望ましい生活習慣の形成」	●「起床(就寝)食事」など、規則正しい生活習慣の定着を目指すことを継続する。 ●月目標を設定し、それを意識した学校生活を心がけさせることを継続する。 ●学活ノート等に生活記録を記入させ、生徒の生活実態を把握する。原簿においては、原簿の様子を観察や全学年などから生活実態を把握する。また、家庭と連絡を取り保護者との連携を図る。 ●学級活動で生活習慣を見直し機会を設ける。 ●学校通信等で児童生徒の実態を家庭へ連絡し、連携を図る。 ●週に1回、小中合同で遊ぶ日の設定をし、多くの児童生徒が体を動かすように促す。また、小学校においては、児童全員で遊ぶ日の設定もする。その時に教師も参加し、体を動かすことの楽しさを感じさせ、体力の向上を図る。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂取率100%を継続	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●朝食摂取調査を実施して状況を把握し、家庭と連携して指導する。 ●全校朝会や小中学校別朝会などで、食生活に関する授業指導を行う。 ●「食に関する指導」を学級活動や保健の中に位置付け、児童生徒に指導をする。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●定時退勤日の設定(毎週水曜日) ●学校開庁日の設定(市教委の指導) ●部活動休業日の設定(本校「運動部活動等の在り方に関する方針」による) ●企画委員会を中心として、行事・企画を精選し、学年等が活動しやすい環境づくりをする。
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○意識調査において、ICTを積極的に活用できると回答する教員90%以上	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	●共有フォルダを活用して、様式・業務データの共有化を図り、効率的な業務遂行に努める。 ●ICT活用に係る職員研修等を通して、電子黒板や学習用端末等のより効果的な活用方法について研修し、教職員のICT活用スキル向上を目指す。 ●電子黒板及び電子教科書を効果的に活用する。 ●ICT活用に係る職員研修を実施する。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	具体的取組
○連携(小中・地域)	○小中学校教員の協働による教育実践と学習習慣の向上	●中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。 ●中学校のテスト期間に「家庭学習充実週間」と設定し、各種たより等で家庭の協力を得ながら、児童生徒とともに家庭学習に励ませる。 ●強化週間(年3回)を設定し、児童生徒へ学習規律「まだらっ子スタイル」の浸透を図る。
	○島民参加を促進する教育活動の実施	●体育大会に島民参加の種目を設定したり、文化祭に島民が出演する時間を設けたりする。 ●島民に、GTとしての授業参加や、調査活動・インタビューなどへの協力依頼を行う。

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育